

厚岸湖・別寒辺牛湿原

(あつけしこ・べかんべうししつげん)

湿地のタイプ：汽水湖、低層湿原、高層湿原、河川

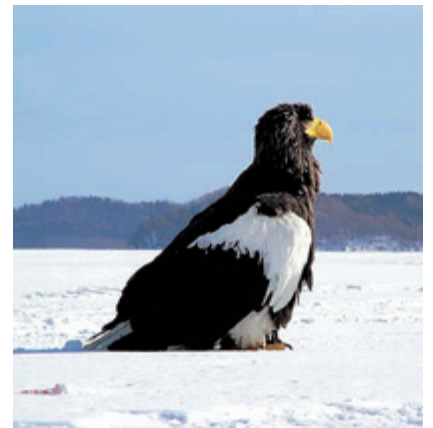
位置：北緯43度03分、東経144度54分／標高：0～20m／面積：5277ha／湿地のタイプ：汽水湖、塩性湿地、低層湿原、高層湿原、河川／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区／所在地：北海道厚岸町／登録：1993年6月／国際登録基準：1、2、4、6



別寒辺牛川と厚岸湖(右奥)



別寒辺牛川中流域の高層湿原(写真：岡田操)



オオワシ

湿地の概要：

北海道東部を北から南に流れ下る別寒辺牛川は、全長43km、日本の主要な河川のなかでもっとも人工工造物が少ない自然度の高い川である。流域に約8300ヘクタールの別寒辺牛湿原が広がり、河口に3230ヘクタールの厚岸湖がある。

別寒辺牛湿原は、東の霧多布(きりたつぷ)湿原、西の釧路湿原の陰に隠れて長い間、開発の手が入らなかったため、日本で有数の原生的自然が残されている湿原である。別寒辺牛川流域に広がる大部分はヨシ、スゲ、ハンノキからなる低層湿原だが、1989年に人工衛星写真の解析から約100ヘクタールの高層湿原が、ほとんど手つかずの原生状態で発見された。湿原の発達過程を見られる貴重な湿原である。

厚岸湖は汽水湖で、湖畔の塩湿地には、ここで発見されて名前を冠したアッケシソウをはじめ塩性植物群落が点在し、潮汐の影響を受ける別寒辺牛川の右岸河

口では、スゲ類などに特徴的な種構成を見ることができる。

野鳥の楽園：

確認されている鳥類は約200種で、冬も全面凍結しない厚岸湖は日本有数のオオハクチョウの越冬地になっている。厚岸湖周辺では、300羽以上のオオワシ、オジロワシが越冬する。また、別寒辺牛川上流域はタンチョウの重要な生息地としても知られ、2005年、日本野鳥の会がトラストしたタンチョウ保護区381ヘクタールが新たにラムサール条約湿地に編入された。「東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ」重要生息地ネットワークに参加している。

湖のワイズユース：

太平洋に面した内湾の厚岸湾と汽水湖の厚岸湖は、波静かな天然の港湾で、生物相豊かな好漁場として、むかしから利用されてきた。現在も漁業は地域の主要な産業で、サンマ、サケ、マス、コンブなどの水揚げとともに、厚岸湖内ではカ

キ、アサリの養殖が盛んにおこなわれている。漁業組合では、湖の水質と環境を守るため、毎年、別寒辺牛川の上流部、集水域で植林をおこなっている。

【オオワシ】全長約90cm。体は黒褐色で、翼の前縁部と尾だけが白い、黄色い大きくちばしと足をもった大形のワシ。ウミワシの仲間では最大で、翼を広げると2.4mにもなる。カムチャッカ半島やサハリン沿岸で繁殖し、冬に北海道東部を中心に飛来する。主に魚を餌にしている。

●関係自治体

厚岸町役場 Tel: 0153-52-3131

